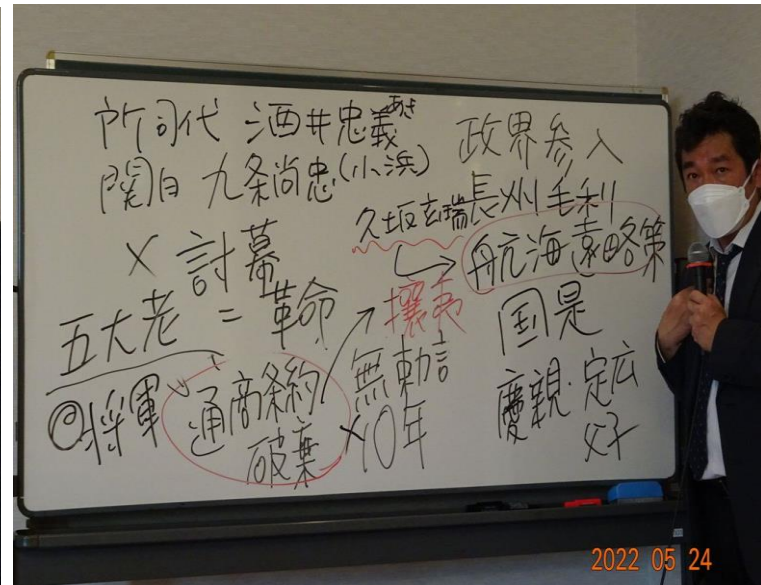


2022年5月24日

日程表及び配られたレジュメは薩長の攘夷戦争となっておりますが、講義内容は5月10日配布の第4回資料 島津久光上洛、寺田屋事件、生麦事件についておこなわれました。主な内容は次の通りでした。

- ・文久2年(1862)4・6月 安藤信正・久世廣親の罷免
- ・4月 寺田屋事件
- ・5月 島津久光(大原重徳)上洛の後東下
- ・6・7月 毛利慶親・定廣父子入京
- ・7・8月 島津久光の文久の改革
- ・8月 生麦事件
- ・10月 天杯頂戴




久世・安藤政権は「公武一和(公武合体)を目指し、皇女和宮を将軍家茂に降嫁させる。日米修好通商条約は無勅許であるから一旦破棄し、改めて大名も参加できる新条約を結ぶ」方針であった。

所司代酒井忠義、関白九条尚忠の解任

注)被処罰者は100余名に及んだ。

4 徳川慶喜・松平慶永の文久の改革 1862(文久2)年

契機	薩摩藩主島津忠義の父、久光が勅使を奉じて幕政改革を要求(島津久光の公武合体策)	 <p>島津久光 (1817~87) 外様大名の薩摩藩主島津茂久(忠義)の父。公武合体派。</p> <p>新選(撰)組(1863年結成) 京都守護職の支配下にあり、京</p>
政権	徳川(一橋)慶喜(将軍後見職), 松平慶永(政事總裁職), 会津藩主松平容保(京都守護職)	
施	参勤交代の緩和…3年に1度, 在府は100日。 妻子の備国を許可 軍制改革…洋式陸軍の編成(百姓を徴発) 学制……蕃書館所を洋書館所と改称(←1871)	



島津久光は文久の改革を唱え、山陵(陵墓)の補修を進言した。

長州毛利慶親・定廣父子は、日米修好通商条約により華夷秩序(中華夷狄秩序)が破壊される、久坂玄瑞の「航海遠略策」を国是とすべし、と幕府に進言した。また、天杯頂戴し幕府の下ではなく同列の「藩」として公認された。



島津久光一行が江戸からの帰途、横浜近郊の生麦村でイギリス人4名のうち3名を殺傷した。(生麦事件)

以上